

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター 〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉
 E-mail:kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>
 松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」
 〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

一歩一歩

心新たに新年のスタートをきられたことだと思いますが、同時にオミクロン株の感染急拡大により教育活動の制限が余儀なくされる状況となってしまいました。このような中、子どもたちの安全を守り、学びやつながりを止めないようご尽力いただいている先生方のお力になれるよう私たちも努めていきたいと思います。

子ども支援研究センターにおいて、鈴の森教室や三雲やまゆり教室、いっぽ教室に通う子どもたちは様々なかかわりを通して日々成長を重ねています。その姿に私たちも学ぶことが多いと実感する毎日です。今年も子どもたちの願いや思いに寄り添い、その実現に向け子どもたちが一歩一歩前に向かって歩んでいけるよう支援をしていきたいと思います。

就学前支援教室「ふたば」



今年も1月8日（土）より、外国にルーツがある来年度市内小学校に入学予定の幼児を対象とした「ふたば」教室が始まりました。3月19日（土）まで毎週土曜日に全11回行います。今年度、「ふたば」教室ではフィリピン、インドネシア、ベトナム、中国の子どもたち22人が、日本の学校生活をスムーズに始められるように、返事の仕方や座り方、手の上げ方をはじめ、小学校で使う簡単な日常会話や日本語を学びます。また、給食当番、掃除など日本の学校の文化も体験活動を通して楽しく学びます。保護者の方には、小学校のルールや、入学式や給食等の学校行事や学校生活について情報を提供します。子どもたちや保護者の方が不安なく、楽しい小学校生活を送ることができるよう支援していきたいと思います。



教育関係書籍貸し出し中！ぜひご活用ください！

教育関係書籍、隨時追加しております。お近くにお越しの際には、当センターの事務所にお立ち寄りいただき、ぜひご活用ください。今年度新たに購入した書籍の一部をご紹介します。

書名	著者
やさしくわかる！愛着障害	米澤 好史
0-5歳児子どもの「やりたい！」が發揮される保育環境	宮里 晓美
GIGAスクール構想 小学校低学年1人1台端末を 活用した授業実践ガイド	堀田 博史 佐藤 和紀・三井 一希
GIGAスクール構想で進化する学校、取り残される学校	平井 聰一郎
まんが やってみたくなるオープンダイアローグ	斎藤 環
対話・話し合いの授業づくり	菊池 省三
社会を生きぬく力は小学校1時間の授業にあった	菊池 省三

☆ 松阪市子ども支援研究センターホームページの「蔵書案内」より検索できます。

「松阪教育支援センター」って何をしているところ？

当センターは、学校へ行けない、行きたくない児童生徒の「疲れた心を元気に」「本人の気持ちや考えを大事に」する、心に寄り添った支援をめざすとともに保護者・教職員への支援にも取り組んでいます。

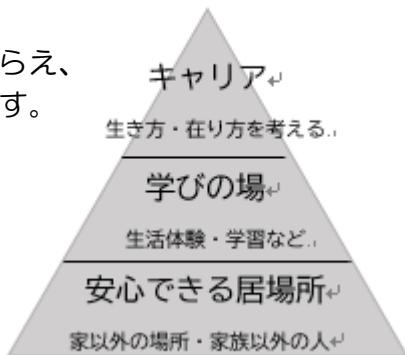
1 「鈴の森教室」と「三雲やまゆり教室」での通室生支援活動

山登りや陶芸教室、フラワーアレンジメントに調理実習といった体験活動や、スポーツや読書会などの小集団での活動を通して、通室生同士が交流を深めることで心を安定させ、ふれあいの楽しさを感じられるよう支援します。

<支援活動で大切にしていること>

それぞれの子どもたちの状況を大きく3つの段階でとらえ、本人にとって適切な通室ペースや過ごし方を考えています。ゆっくりではあるが少しずつ他者に関わっていった子、活動に熱中して表情が和らいだ子、いろんな成長があります。

安心できる場所で心のエネルギーをためた子が「外に出てみようかな。でも、まだ学校には…」と思っているときには、センター通室を紹介ください。



2 教職員・保護者への教育相談活動

登校渋りや不登校の児童生徒への支援や関わり方といった相談も受けます。事態が深刻になる前に、できることはあるかもしれません。「これはおかしい。でも、どうしたらいいのか…」と悩んだときには気軽に相談ください。(26-1900)

3 研修活動

年間3回、担任会研修会として各校から同じ悩みを抱える教職員が集う機会を設けています。「児童生徒・保護者をどのように支援していくか」「担任として不安にどう向き合うか」大学教授等の講師には講義はもちろんのこと、悩み相談にも乗っていただいております。参加をお待ちしております。

